

メタファーの世界



佛教大学
公式キャラクター
「ぶったん」

教授 瀬戸 賢一

比喩を生きる 理解、行動に不可欠

村上春樹の最新刊『騎士団長殺し』の第二部には「遷ろうメタファー編」の副題が付いています。これまで隠喩や暗喩とも呼ばれていたものが、ようやく市民権をえたのでしょうか。

メタファーは比喩の代表。似ているという感覚を大切に、わかりにくい事柄をわかりやすいことばに喩えます。日ごろよく使う表現法で、ことばの飾りではありません。

たとえば「温かいところ」や「冷たい仕打ち」。ここにメタファーが入っています。「温かい」と「冷たい」は文字どおりの意味ではなく比喩。それが証拠に、温かいところで風呂を沸かせますか。冷たい仕打ちでビールを冷やせますか。皮膚感覚でよくわかるのに、メタファー抜きで表現しようとするとなちまち四苦八苦します。

バランスということばはどうでしょう。体操選手が平行棒の上で、スケート選手が氷の上で美しい身体のバランスを披露してくれます。さぞかし栄養のバランスにも気を配っているのでしょうか。あるいは練習とオフのバランス、プロなら収支のバランスも。もう肉体的な意味ではありませんね。メタファーです。

きっと子どものころからの基礎の積み重ねがあって見事な花が開くのです。開花もメタファーですが、では「基礎」からは何が見えますか。基礎が大切。よく言い聞かされました。そう、勉強にも当てはまる。実は建築のメタファー。基礎をしっかり固めて上に積む。こうして学力をどんどん伸ばします。

学校で議論や討論の練習をしましたね。まだ訓練が足りないのか、最近ではネット上でヒートアップして「炎上」することもしばしば。これはどうしてでしょうか。議論について考えるにはおもに二つの道があります。戦争のメタファーと建築のメタファー。

「炎上」するのは戦争のメタファーを選択するからです。討論の「討」にすでにその萌芽が見られます。西欧流のディベートならそれが一層明らかです。要するに勝つか負けるかですから。そのために作戦を練り、相手の弱点を突き、自陣を防御する。強烈な砲火をいっせいに浴びれば炎上も仕方ありません。

もうひとつは建築のメタファー。この思考経路をたどれば、互いに協力してひとつのものを作り上げます。合意形成を目指し、一緒に最終目標に向かって粘り強く力を合わせる。もちろん時間はかかるでしょう。これはメタファーの選択が異なった行動パターンにつながることを教えてください。とても大切なポイントです。

その例をもうひとつ示しましょう。たとえば人生。このままでは抽象的でつかみどころがないので、何かもっとわかりやすいものに喩えて理解します。

人生を旅に見立てるのはどうですか。すると、人は旅人となって人生行路を歩む。振り返ってあの時が人生の岐路だったか、人の行かない方の道を選んでおけばよかった、などと反省します。若者なら将来の進路を考えなくては。ときに壁にぶつかることもあるでしょう。振り返る、岐路、進路、壁はすべて旅のメタファーです。

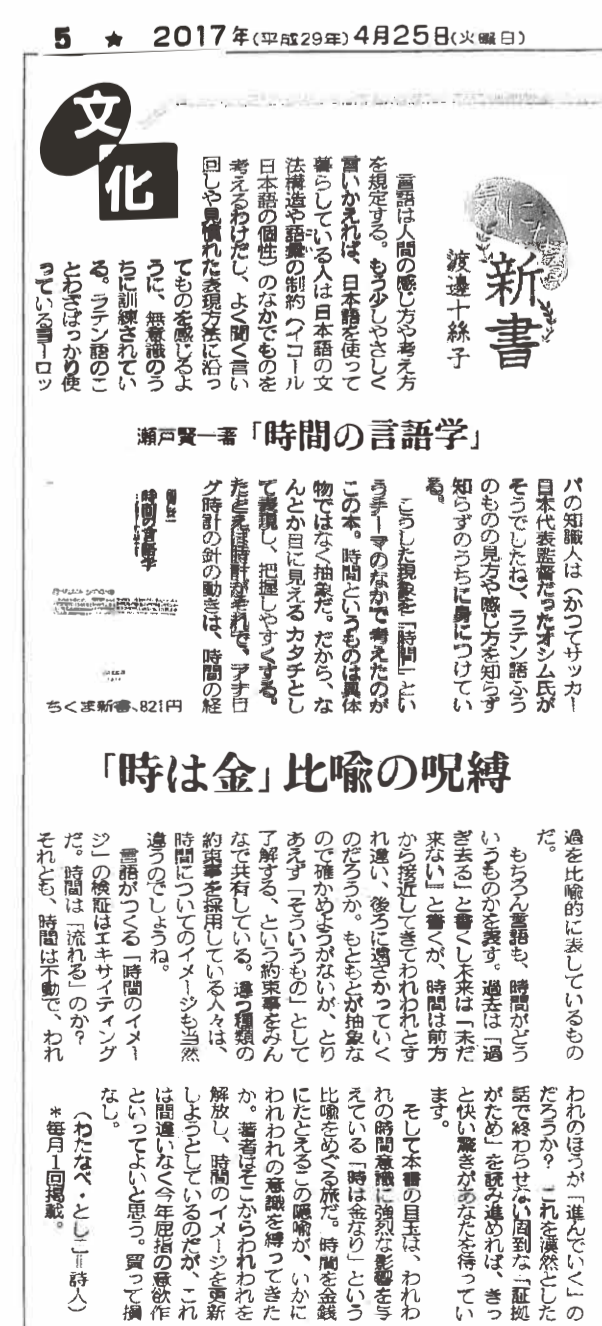
こんなじれったい人生はいやだ。一か八かの勝負に出てやる。しかしこれは賭け事のメタファー。ならば人生七変化を演じるのは？

まだ人生の幕は開いたばかり…。あれこれ考えてもメタファーから逃れられません。まるでお釈迦様の手のひらから逃れられない悟空のように。

最後に、やはりメタファーでしか考えられないものをひとつ紹介しましょう。「時間」です。これまで哲学者や天文学者など、それも古代から現代まで多くの先人が時間の分析をしてきました。もちろんいまの科学者はそれを正確に計測できると言うでしょうが、私たちの実感する時間はまた別のところにありそうです。ふだん時間はメタファーでしか考えられないからです。ではどのように思考しているのでしょうか。

中日新聞 2017年6月6日より抜粋

新聞記事



2017年4月25日東京新聞抜粋

刊行物



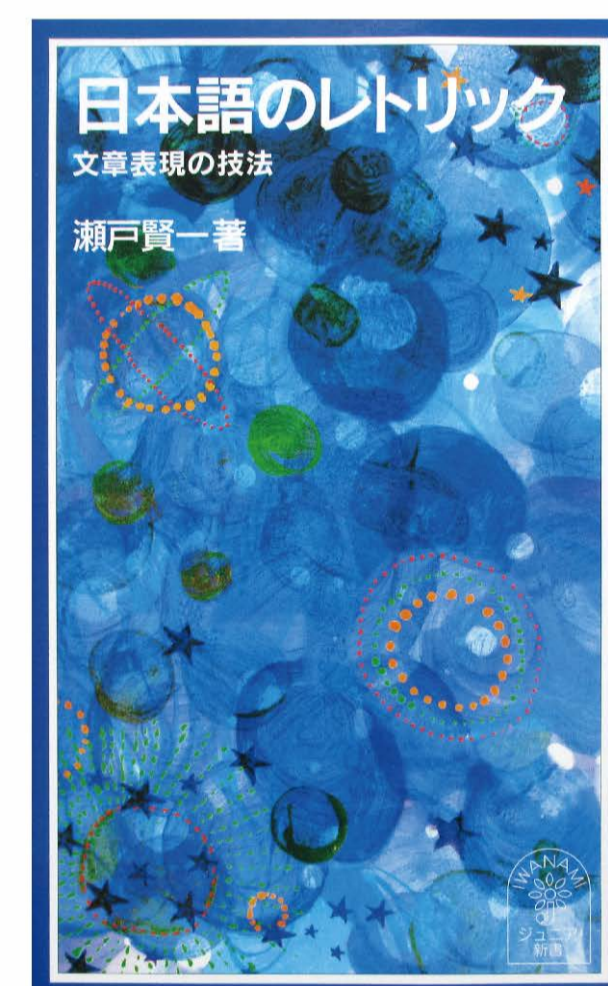
『よくわかるメタファー
：表現技法のしくみ』
(ちくま学芸文庫)
2017年7月

日常会話から文学作品まで、私たちの言語表現を豊かに彩る比喩。それが生まれるプロセスや上手な使い方を身近な実例とともに平明に説いています。



『時間の言語学
：メタファーから読みとく』
(ちくま新書1246)
2017年3月

物理学でも哲学でもない、言語学からみた時間論。(時は金なり)等、現代人が縛られているメタファー(隠喩)を明らかにしています。



『日本語のレトリック
：文章表現の技法』
(岩波ジュニア新書)
2002年12月

「人生は旅だ」「筆が立つ」「負けるが勝ち」「値千金のホームラン」…。魅力的なことばやたくみな文章表現で、読む者をひきつけ強い印象を与えるレトリック。その中から30を選び、漱石・鴎外から井上ひさし・宮部みゆきまで数多くの小説や随筆・詩を豊富に引用し、その多様な表現方法を味わう。日本語がおもしろくなる本です。



『メタファー思考』
(講談社現代新書)
1995年04月

目玉焼き・メロンパン・希望の光・人生の黄昏——日常言語に含まれる思考手段としてのメタファーをとりあげ、人間的意味の形成のしくみを明かす。



『英語多義ネットワーク辞典
(英語辞典シリーズ)』
(小学館)
2007年3月

認知言語学で多義語を記述する世界初の辞典。認知言語学的手法で多義語の記述を行った、世界で初めての画期的辞典。意味が多すぎ、わかりにくかった英和辞書の多義語記述を根本から見直す。単語の意義全体をスムーズに関連づけて理解でき、単語指導にも最適。



研究テーマ

メタファーの世界

最近の業績

『時間の言語学』(2017、ちくま新書)
『よくわかるメタファー』(2017、ちくま学芸文庫)
『認知言語学演習』(2017、全3巻、大修館書店)

専門分野

英語学、英語辞書編集

科学研究費採択

認知言語学的手法を応用したオンライン英語多義語辞書の開発

<http://www.bukkyo-u.ac.jp/about/teachers/detail/42/>

